

教務だより

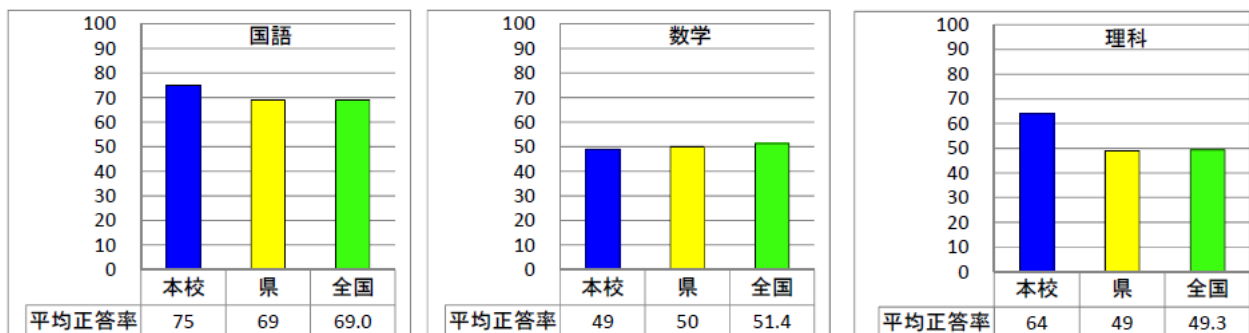
令和4年度 全国学力・学習状況調査の結果

全国学力・学習状況調査は、小学校6年生と中学校3年生を対象に、

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

ことを目的として、文部科学省が、学校の設置管理者である都道府県教育委員会、市町村教育委員会等の協力を得て実施するものです。

本年度は、4月19日(火)に調査を実施し、平均正答率(%)は次のような結果(本校並びに県平均は、小数第1位を四捨五入した数値の公表)でした。



国語の平均正答率は75% (全国比+6.0pt)、数学の平均正答率は49% (全国比-2.4pt) 理科の平均正答率は64% (全国比+14.7pt) という結果となっている。

成果は、理科がすべての領域において全国平均を大きく上回っていること。国語の「情報の扱い方に関する事項」において良好な結果(全国比+25.5pt)であり、資料から必要な情報を引用することができていると言える。

課題は、数学の領域「A 数と式」の素因数分解を取り扱う問題に関して、本校平均20%(全国比-32.2pt)であり、素因数分解は平方根でも用いられる考え方であるため、重点的に指導しておきたい。

全国学力・学習状況調査の問題は、学習内容に係る知識・技能を活用する力を問う問題です。近年、公立高校入試の問題の傾向は以前までのものと大きく変わってきています。具体的には、知識の習得だけでは対応できず、知識を組み合わせる考え、自分の考えをまとめて文章等で表現する力(活用力)が求められる問題が多く出題されています。

2学期のスタートにあたって、「基礎・基本」を身につけた上で、それを活用して新たな価値を創造し、「未知の状況に対応できる」深い学びとなる授業づくりを、全教職員で確認して取り組んでいきます。

全国学力学習状況調査 ー指導方法等の改善計画について

【国語科】

平均正答率 75% (全国 69%)

思考・判断・表現

知識・技能

0 20 40 60 80 100

重点課題

重点課題に対応した改善指導内容及び方法

【課題1】知識及び技能（1）言葉の特徴や使い方に関する事項において、助動詞の働きについて理解して適切に用いる問題の正答率が72%（全国比－10.3%）

【課題1】助動詞の働きとして、複数の文を比較して同じ働きのものを選択する問題であり、助動詞について深く理解している必要がある。そのために、類似問題などで対策をしていきたい。

【課題2】知識及び技能（1）言葉の特徴や使い方に関する事項において、比喩表現に関する問題の正答率が32%（全国比－20.5%）

【課題2】比喩表現の中でも、直喩・隠喩・擬人法などの区別ができていない傾向が見られたため、身近な例を用いながら学習を深めていきたい。

【数学科】

平均正答率 49% (全国 51.4%)

思考・判断・表現

知識・技能

0 20 40 60 80 100

重点課題

重点課題に対応した改善指導内容及び方法

【課題1】領域「A 数と式」の素因数分解を取り扱う問題に関して、本校平均 20.0%(全国比－32.2%)

【課題1】数の集合や、範囲の拡張を指導し、数の概念への理解をより一層深められるようにする。素因数分解は、平方根でも用いられる考え方であり、重点的に指導しておきたい。

【課題2】領域「A 数と式」の連立方程式を取り扱う問題に関して、本校平均 60.0%(全国比－14.5%)

【課題2】既習の一元一次方程式と対比させながら、二元一次方程式の意味を理解できるようにする。一次関数と二元一次方程式のグラフと関連付けるなどして、他領域との関連を図りながら指導にあたりたい。

【理科】

平均正答率 64% (全国 49.3%)							
<table border="1"> <caption>Bar Chart Data</caption> <thead> <tr> <th>Category</th> <th>Score (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>思考・判断・表現</td> <td>64</td> </tr> <tr> <td>知識・技能</td> <td>70</td> </tr> </tbody> </table>		Category	Score (%)	思考・判断・表現	64	知識・技能	70
Category	Score (%)						
思考・判断・表現	64						
知識・技能	70						
重点課題	重点課題に対応した改善指導内容及び方法						
<p>【課題 1】</p> <p>3(3) 化学変化に関する知識及び技能と「エネルギー」を柱とする領域の知識及び技能を関連付け、分析して解釈することに課題が見られた。本校平均 20.0% (全国比-4.8%)</p> <p>【課題 2】</p> <p>2(3) 飛行機雲の残り方を科学的に探究する学習場面において、地上の観測データを用いて考察を行った他者の考えについて、多面的、総合的に検討して改善することに課題が見られた。本校平均 24.0% (全国比-4.5%)</p>	<p>【課題 1】</p> <p>知識及び技能を関連付け、分析して解釈する思考を日々の授業の中で行う。</p> <p>【課題 2】</p> <p>他者の考えについて、多面的、総合的に検討する活動を日々の授業の中で行う。</p>						

今回の受検教科である国語・数学・理科のみならず、すべての教科で学校活動全体を通して取り組んでいる、「未知の状況に対応できる生徒の育成」を、「ジャンプの学び」(「総合的な学習の時間」をはじめとする、教科書レベルより上の課題を解決させるために、質の高い問いや課題を設定したり、質の高い学びを実現させたりする取)を通して実施してきたことによる成果が表われていると考える。これを研究主題として掲げ、学校全体で取り組むことにより、難易度の高い問題や答えが一つではない問いに直面した際に、生徒が主体性を持って授業にのぞむことができている。『授業では、わからないことや疑問に思ったことをグループ内で聴き合うことで、考えを深めています。』という生徒アンケートの肯定的回答は、90%を超えている。これは、過年度の研究主題でもあった“聴き合うことで深い学びにつなげる”という学習の成果であるとも言える。

前年度の標準学力調査後により明らかになった、課題の改善に向けて、基礎基本の定着を図ってきた。具体的には、小テストや小プリントで理解度を把握し、習熟度別に個に応じた手立てを講じた。このことも、今回の結果に、成果として表われていると考える。

また、質問紙調査からも、授業への主体的な参加、仲間とともに学び高め合う項目では、肯定的回答が全国比を上回っている。生徒が安心安全に学ぶことができる学習環境づくり(集団づくり・学習規律・心を育てる教育)も学力向上に大きく関係することから、よりいっそう、日々の取組を充実させていきたい。